

## II. 分担研究報告

## 内科系サブスペシャリティ領域専門医（学会認定）の実態と課題：

サブスペシャリティ領域学会アンケートと厚労省三師調査より

分担研究者 渡辺 毅

背景： 新専門医制度は、平成 25 年厚労省「専門医制度に関する検討委員会」報告書において基本領域とサブスペシャリティ（サブ）領域の 2 段階制度を基本として、第三者機関が管理運営すべきとされたことに準拠して、平成 26 年一般社団法人日本専門医機構（機構）が発足し、総合診療を含む 19 基本領域を認定したが、諸団体から地域医療への悪影響の懸念が強く、開始は 1 年遅れ、領域・都道府県別の専攻医定員（シーリング）を設定することで 30 年度に基本領域の専攻医募集を開始した結果 8410 名が採用され開始された。

サブ領域に関しては、平成 27 年機構理事会で、機構認定の基本姿勢が示され、104 候補領域から連動研修予定の内科系 13、外科系 4（心臓血管外科を含む）とその他 12 領域が認定されたが、平成 28 年理事会でその他の 12 領域は白紙に戻され、連動研修予定領域に内科系 2、外科系 2、放射線科 2 を追加、計 23 領域が認定された。平成 30 年設置の機構サブ領域検討委員会では、機構認定要件を議論し、サブ領域研修運用細則を策定、認定評価のための調査票（レビューシート）を全候補領域に送付し 94 領域から回答を得、まず 23 領域に関する評価表を作成した。一方、平成 30 年医療法と医師法が改定され、地域医療提供体制には重大な影響を与える場合は機構が厚労大臣の意見を聞く義務を課された。同年設置の医道審医師専門研修部会（部会）は、地域と診療科偏在の懸念などから平成 31 年の連動研修開始を保留とした。現在、サブ領域に特化したワーキンググループ（WG）が厚労省医政局に設置され、今年度中の結論を目指し議論されている。この WG の議論の主たるテーマは、①サブ領域専門医制度の全体像、②連動研修の可否と適用範囲とされている。一方、これらの議論は、本厚労省特別科研のテーマである各サブ領域専門医の必要数を検討するためには必須である。すなわち、各サブ領域の必要医師数の算出には各領域に対する医療需要と各領域専門医の医療提供（供給）能力が要素となるが、これらの推計には、各サブ領域専門医制度及び基本領域専門医制度の相互関係の規定は前提となる。特に、主として臓器別の外科系と異なる多層的構造を特徴とする内科系サブ領域においては必須である。一方、日本の専門医制度は、欧米から約半世紀遅れて昭和 37 年から各専門学会の制度として次々設立され、当初は制度間の統一性に欠け、国民に理解し難い欠点があったが、様々な統合組織で学会間調整が行われた結果、内科系では内科学会と 16 サブ領域（既に機構認定された連動研修を実施する 15 領域に加えて、内科学会では心療内科が追加承認されている）からなる協議会が存在し、長年にわたる議論でサブ領域専門医制度はある程度標準化されている。これらの既に運営されている内科系各領域専門医制度は新専門医制度の制度構築の母体となるべきであり、可能な限り客観的に実態把握をすることが必要である。

目的：

本厚労省特別科学研究は、サブ領域診療科所属医師及び専門医に関して、下記の目的を掲げている。

- ① 医師調査票を基に各診療科の平均勤務時間を働き方改革に即して現在の必要医師数を算出する方法論の妥当性の検証。
- ② 医師調査票による各診療科別の専門医数情報と当該領域学会登録専門医数の比較検討。
- ③ 医師の卒後の移動実態がサブ領域専門医の地域偏在に与える影響の検討。

①、②の検討のための基盤として、各サブ領域診療科の医師調査票の解析による特徴・医療体制での役割や年齢分布、専門医が診るべき患者実数に基づいて算出する必要医師数算出の方法論の妥当性や可能性の検討が必要となる。

本分担研究では、内科系各サブ領域の診療及び所属医師（専門医）の性状や医療における位置づけを主に医師調査票の解析から検討し、さらに各サブ領域学会へのアンケート調査によって、学会側が考える必要専門医数、医療における意義、および社会的役割の情報を検討し、新専門医制度における各サブ領域の位置づけと必要専門医数の算出の基礎データを提供することを目的とする。

方法：

1) 資料：

① 三師調査の医師調査票（平成 20 年、28 年、30 年度）

② 内科学会より各サブ領域学会にアンケート調査（2020 年 1 月）を実施。質問項目は 1. 専門医が診るべき疾患とその数、2. 必要専門医数推計、3. 専門医が診ることが有用と考えられる参考文献、4. 専門医の役割等、公的な位置づけなどで設定されている場合はその実態である。

③ <参考資料> 「医療連携モデルを基盤とした総合診療系医と領域別専門医の必要数算定法と専門医制度の検討（H-21-医療-一般-003）厚労労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 平成 21-22 年度 総括・分担研究報告書（代表研究者 渡辺 毅）」

2) 解析法：

① 医師調査票（三師調査）による主診療科、複数所属診療科と専門医の比較による各診療科及び専門医の実態・特徴と位置づけ

② 各サブ領域学会にアンケート調査による専門医が診るべき疾患とその総数と推計する必要専門医数とその方法と現存専門医数の比較

結果：

① 内科及び内科系サブ領域診療科と広告可能専門医の特徴（医師調査票）

主たる診療科が内科系診療科所属医師の全医師に対する割合は、全体では平成 20 年 38%、平成 30 年 37%を占める。年齢別には、30 歳代では平成 20 年 34%、平成 30 年 35%であ

るが、両年ともその比率は年齢とともに増加し、60歳代では平成20年49%、平成30年47%となる。特に、内科所属の医師の年齢別の割合の増加が顕著で、30歳代では平成20年12%、平成30年8%の比率は年齢とともに増加し、70歳以上では平成20年45%、平成30年39%を占める。H20年～H30年の10年間にその全医師における割合は微減傾向である。逆に、内科系サブ領域所属医師は30歳代平成20年25%、平成30年30%から加齢とともに減少し、70歳以降で平成20年8%、平成30年11%と加齢によって3分の一程度に減少する。H20年～H30年の10年間にその全医師における割合は微増傾向である（表1 三師調査年齢層別解析 H20、30年）。

主たる診療科を内科とする医師の専門医（総合内科専門医）取得者の比率は37%と各診療科における専門医取得率で最も低い（表2：三師調査・学会アンケートまとめ・内科系抽出）。一方、総合内科専門医の認定内科医（嘗て、総合内科専門医とサブ領域専門医の前提となる資格であった）に対する比率は40歳代がピークで61%となっており、60歳以上では急に減少する（表1）。

平成28年（2016年）三師調査における各内科系サブ領域の「主たる診療科別にみた医療施設に従事する医師数」（表2中では「主」と表示）において、所属診療科のデータの表示されていない（非常に少ない）診療科は、肝臓、消化器内視鏡、内分代謝、老年病、がん薬物療法（腫瘍内科）である。「診療科（複数回答）、施設の種別にみた医療施設に従事する医師数」（表2中では「主」と表示）と「主たる診療科別にみた医療施設に従事する医師数」の比率が大きい（2.5倍以上）の診療科はアレルギー、心療内科、リウマチ、感染症である。

「主たる診療科別にみた医療施設に従事する医師数」で専門医数（表2中では「専」と表示）の比率が多い（2.0以上）の診療科はアレルギー、リウマチ、感染症、逆に診療科での専門医数の少ない（0.5未満）の診療科は内科、心療内科である（表2）。主たる診療科が内科系サブ領域診療科医師の中でH20年～H30年の10年間にその全医師に対する割合が各年齢において顕著に増加している診療科は、糖尿病と腎臓であり、減少しているのは循環器、消化器、呼吸器である（表1）。

## ②専門医が診るべき疾患とその数（表2）：

### 1. 学会アンケート：

専門医が診るべき疾患の特徴からその状況を推測し、その患者数を示した学会は呼吸器、内分泌代謝、血液、リウマチの4学会であったが、呼吸器では、ある疾患の全体の患者数のうち、重症度から専門医が診ている割合を算出し、専門医が診るべき患者数を算出している。

### 2. 患者数調査

専門医が診るべき疾患とそれらの患者数を示した4領域に関しては、領域学会の提示した患者数の確認を政府統計、平成29年患者調査（傷病分類偏）より試みた（資料「平成29年政府統計患者調査」）。血液領域に関しては、学会の推定と類似した数値であった。しかし、他の3領域に関しては、学会が提示した疾患についての平成29年患者調査データの欠損が

多すぎて、一部の疾患のみでしか確認が可能でなかった。

### ③必要専門医数（表2）：

#### 1. 学会アンケート

(1) 専門医が診るべき疾患・専門手技検査とその数より、必要な専門医数の推計を行った学会は、4学会であった（呼吸器、リウマチ、血液、腎臓）。

血液、呼吸器、リウマチでは、主たる患者数からその診療に必要な日数、1月当たりの勤務日数、業務内容を考慮して算出している。

腎臓は、過去の研究（参考資料）における疫学的な専門医が診るべき慢性腎臓病（CKD）数と専門医に対するアンケートによる専門医当たり診療患者数から計算しているが、患者の受療率を考慮していない（受療率100%と仮定）ために現状の3倍以上の必要数を提示している。

(2) 配置が必要な医療機関数と施設における必要専門医数から推計

- ・ 基幹病院、教育病院、政策病院などの医療機関に必要な配置専門医数とその地域連携を考慮して推計（感染症、老年病、内分泌代謝）
  - ・ 米国の専門医数から日本人口と比較して推計（がん薬物療法）
  - ・ 将来の人口動態を現在と比較して専門医数を推計（消化器、肝臓）
- 本来専門医が実施すべき検査・治療手技と現状との解離から2倍が必要（消化器内視鏡）などの回答があった。

#### ④ 実態専門医数調査

現状の学会認定専門医数は、アンケート調査で専門医数の記載があった学会はその数を採用し、他は学会ホームページで公表している専門医数を採用した（学会アンケート）。

内科系専門医の合計延数は143,875、サブ領域専門医の合計延数は105,906であり、認定内科数89,053人、総合内科専門医数は37,969人であった。

#### ⑤ 各サブ領域専門医の社会的意義：

学会アンケートの質問（3. 専門医が診ることが有用と考えられる参考文献、4. 専門医の役割等、公的な位置づけ）に対して、各サブ領域学会から十分な回答を得た（表3）

考察：

#### ① 内科及び内科系サブ領域診療科と専門医の特徴（医師調査票）

全内科系診療科所属医師の全診療科医師に対する割合は、30歳代では34～35%であり、内科系医師の最近の微減傾向を考慮すると、内科専門医の専攻医数の比率（32～33%）に相当すると考えられる。一方、年齢とともに増加率（13～14%）から内科系診療科医師の28～29%は他の基本診療科から転向した医師と考えられる。内科医師（ジェネラリスト）の加齢による増加率31～33%の一部（13～14%）に反映し、残りは内科系サブ領域所属医師の年齢的減少（転向）（17～19%）が反映すると考えられる。内科系サブ領域所属医師の

年齢的減少は、アレルギー、感染症、心療内科では顕著でないが、他の内科系サブ領域では同様に 70 歳台までに 30 歳代から 3 分の一に減少している。H20 年～H30 年の 10 年間に内科医（ジェネラリスト）の全医師における割合は微減傾向でサブ領域医師は逆に微増傾向にある。

内科のジェネラリストの専門医である総合内科専門医の施設当たりの平均数は現状では他の診療領域に比して低いが、新専門医制度の基本領域としての新内科専門医制度は嘗ての認定医制度から大幅な改定を行い、新研修開始前後に総合内科専門医受験者数が増加し、かつ総合内科専門医の取得に平均 13 年を要している事実から今後は現在の 40 歳代の総合内科専門医の認定内科医に対する比率 61%に近い、すなわち他の診療領域なみの 60%以上となることが推察される（表 1）。

一方、各サブ領域の中では専門医数に比して所属診療科のデータのない（非常に少ない）診療科は、肝臓、消化器内視鏡、内分泌代謝、老年病、がん薬物療法（腫瘍内科）、全所属診療科（複数回答可）と主所属診療科の比率が大きい（2.5 倍以上）の診療科はアレルギー、心療内科、リウマチ、感染症であることは、肝臓、消化器内視鏡、内分泌代謝については、前 2 者は消化器内科、後者は糖尿病内科に含まれることが多い実態を反映し、アレルギー、感染症、リウマチ（膠原病）、老年病、がん薬物療法（腫瘍内科）は臓器横断的な領域で多くの診療科に分散している可能性が推察される。また、診療科当たりの専門医の比率の高いアレルギー、感染症、リウマチ（膠原病）は、他診療科に対するコンサルテーション機能を反映する可能性もある。H20 年～H30 年の 10 年間にその全医師における割合が各年齢で増加している糖尿病と腎臓、減少している循環器、消化器、呼吸器に関しては、高齢化による疾病構造の変化と女性医師の増加を反映する可能性がある。

このように、内科系診療領域は多様であり、それらの性質の解析は、内科系全体の基本領域とサブ領域のそれぞれの階層を考慮した専門医制度設計に配慮すべきと考える。

## ② 各サブ領域の専門医が診るべき疾患と患者数の推計：

内科系サブ領域担当 15 学会に対するアンケートによって、必要専門医数の推計には（1）各領域専門医が担当すべき疾患及び診療行為（医療需要）と平均的専門医の担当可能な患者数または診療行為（一人当たり医療供給）から推計する場合、（2）配置が必要と考えられる医療機関数と施設における必要専門医数から推計、（3）現在の専門医数を基にして、将来の人口構成の変化を係数として掛け合わせることで推定の 3 種類が報告された。

### 1. 学会アンケート：

専門医が診るべき疾患の特徴からその状況を推測し、その患者数を示した学会は（呼吸器、内分泌代謝、血液、リウマチ）の 4 学会であったが、呼吸器では、ある疾患の全体の患者数のうち、重症度から専門医が診ている割合を算出し、専門医が診るべき患者数を算出している。

### 2. 患者数調査

専門医が診るべき疾患とそれらの患者数を示した 4 領域に関しては、領域学会の提示した患者数の確認を政府統計、平成 29 年患者調査（傷病分類偏）より試みた（資料「平成 29 年政府統計患者調査」）。血液領域に関しては、学会の推定と類似した数値であったしかし、他の 3 領域に関しては、学会が提示した疾患についての平成 29 年患者調査データの欠損が多く、一部の疾患のみで確認が可能であった。

### ③必要専門医数推計の推計：

#### 1. 学会アンケート

(1) 専門医が診るべき疾患・専門手技検査とその数より、必要な専門医数の推計を行った学会は、4 学会であった（呼吸器、リウマチ、血液、腎臓）。

血液、呼吸器、リウマチでは、主たる患者数からその診療に必要な日数、1 月当たりの勤務日数、業務内容を考慮して算出している。

腎臓は、過去の研究(参考資料)における疫学的な専門医が診るべき慢性腎臓病(CKD)数と専門医に対するアンケートによる専門医当たり診療患者数から計算、ただし患者の受療率を考慮していない(受療率 100%と仮定)ために現状の 3 倍以上の必要数としている。

(2) 配置が必要な医療機関数と施設における必要専門医数から推計

- ・ 基幹病院、教育病院、政策病院などの医療機関に必要な配置専門医数とその地域連携を考慮して推計（感染症、老年病、内分泌代謝）
  - ・ 米国の専門医数から日本人口と比較して推計（がん薬物療法）
  - ・ 将来の人口動態を現在と比較して専門医数を推計（消化器、肝臓）
- 本来専門医が実施すべき検査・治療手技と現状との解離から 2 倍が必要（消化器内視鏡）などの回答があった。

#### ④ 実態専門医数調査

内科系専門医延総数 143,875、サブ領域専門医延総数 105,906 は、内科系医師の母数に近似すると考えられる認定内科医数(89,053 人)のそれぞれ 161.56%、118.92%である。すなわち、内科医は平均的にサブ領域専門医または総合内科など内科系専門医を 1 つ以上保持している。一方、総合内科専門医 37,969 人は、この時点では認定内科医の 42.64%が保持している。しかし、総合内科専門医の認定内科医（嘗て、総合内科専門医とサブ領域専門医の前提となる資格であった）に対する比率は 40 歳代がピークで 61%となっており、60 歳以上では急に減少すること（表 1）、近年総合内科専門医受験者数が急増していることから、近日中に他の診療領域と同様に過半数以上に達すると推察される。

#### 総括

各サブ領域の必要専門医数の算出に関しては、基本領域の臓器または系統（システム）分化した各内科系サブ領域（呼吸器、循環器、消化器・肝臓・消化器内視鏡、糖尿病・内分

泌代謝、血液、腎臓、脳神経内科、リウマチ（膠原病）に関しては、基本領域と各サブ領域間の連携や役割分担を明示した医療連携モデルの構築を前提として、各サブ領域専門医の診るべき患者像や担当すべき手技を明確化、公的な医療統計による患者数・手技数の把握、働き方改革を配慮した上での専門医一人当たりの担当能力の数値化により算出可能と考えられる。しかし、現状では、これらの全てのステップでの客観的なデータが決定的に不足していることが明らかとなった。

また、内科系医師は加齢とともにサブ領域から内科所属へ移行することから、サブ領域と同時にジェネラリスト（内科専門医、総合内科専門医）の養成が専門医制度構築の重要課題となると考えられる。

一方、臓器横断的な領域（アレルギー、感染症、老年病、がん薬物療法（腫瘍内科））では、コンサルテーションの役割も考慮して、配置が必要な医療機関数と施設における必要専門医数の合計としての必要専門医数算出も補足的な方法として認められるかとも思われる。しかしながら、各施設での必要医師数の医学的効果のみならず医療経済を含む医療面での妥当性のエビデンスが望まれる。

表1 三師調査年齢層別内科系診療科検討H20-H30

H20年	医師数(人)						
	総数	29歳以下	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上
医療施設の従事者	271 897	25 961	64 635	68 044	57 882	28 288	27 087
内科	62 845	1 674	7 564	14 457	17 176	9 888	12 086
内科比率(%)	23	6	12	21	30	40	45
呼吸器内科	4 578	435	1 751	1 311	742	215	124
対全領域比率(X1/1000)	17	17	27	19	13	8	5
循環器内科	10 144	787	3 669	2 916	1 841	675	256
対全領域比率(X1/1000)	37	30	57	43	32	24	9
消化器内科(胃腸内科)	11 187	763	3 688	3 166	2 111	926	533
対全領域比率(X1/1000)	41	29	57	47	36	33	20
腎臓内科	2 597	249	1 120	641	413	131	43
各領域比率(X1/1000)	10	10	17	9	7	5	2
神経内科	3 890	265	1 365	1 178	739	263	80
対全領域比率(X1/1000)	14	10	21	17	13	9	3
糖尿病内科(代謝内科)	2 954	233	1 163	826	498	166	68
対全領域比率(X1/1000)	11	9	18	12	9	6	3
血液内科	1 867	182	712	585	290	86	12
対全領域比率(X1/1000)	7	7	11	9	5	3	
アレルギー科	177	3	37	48	50	25	14
対全領域比率(X1/1000)	1		1	1	1	1	1
リウマチ科	913	64	338	252	155	76	28
対全領域比率(X1/1000)	3	2	5	4	3	3	1
感染症内科	353	17	109	96	68	35	28
対全領域比率(X1/1000)	1	1	2	1	1	1	1
心療内科	3	9	160	278	276	86	74
対全領域比率(X1/1000)			2	4	5	3	3
内科系サブ領域	38 805	3 122	14 328	11 459	7 303	2 777	1 305
内科系サブ比率(%)	18	14	25	20	16	13	8
内科系合計	102 388	4 681	21 676	25 754	24 359	12 572	13 346
対全医師比率(%)	38	18	34	39	42	44	49

皮膚科	8 214	505	2 086	2 072	1 866	889	796
小児科	15 236	986	3 853	3 352	3 774	1 837	1 434
精神科	13 534	580	3 467	3 650	2 980	1 427	1 430
外科	16 865	1 007	3 571	4 259	3 564	2 287	2 177
呼吸器外科	1 445	62	547	491	265	67	13
心臓血管外科	2 889	188	1 027	952	533	156	33
乳腺外科	913	47	278	316	192	54	26
気管食道外科	91	2	36	25	22	4	2
消化器外科(胃腸外科)	4 224	179	1 483	1 417	750	268	127
泌尿器科	6 324	302	1 798	1 830	1 493	606	295
肛門外科	439	2	47	114	120	84	72
脳神経外科	6 398	294	1 696	1 990	1 572	640	206
整形外科	19 273	802	4 882	5 568	4 252	2 134	1 635
形成外科	2 109	279	892	552	278	79	29
美容外科	411	7	149	149	77	22	7
眼科	12 627	517	3 339	3 711	2 698	1 080	1 282
耳鼻いんこう科	8 936	330	2 108	2 340	2 026	879	1 253
小児科	659	35	243	172	138	58	13
産婦人科	10 012	584	2 362	2 261	2 111	1 333	1 361
産科	377	28	131	100	76	21	21
婦人科	1 572	10	206	329	369	219	439
リハビリテーション科	1 916	49	439	541	442	210	235
放射線科	5 187	442	1 740	1 644	1 013	238	110
麻酔科	7 067	905	2 489	2 034	1 254	326	59
病理診断科	1 374	63	345	391	347	175	53
臨床検査科	389	11	73	110	118	55	22
救急科	1 945	263	845	545	247	42	3
臨床研修医	14 546	12 562	1 789	181	14	-	-
全科	256	41	86	47	30	27	25
その他	2 642	76	597	793	605	288	283
主たる診療科名不詳	1 069	51	178	231	222	157	230
診療科名不詳	570	71	177	123	75	54	70

H30年	医療施設に従事する医師数(人)						
	総数	29歳以下	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上
総数	311 963	29 378	64 508	67 384	67 274	53 016	30 403
内科	60 403	1 204	4 891	9 698	15 854	16 837	11 919
内科比率(%)	19	4	8	14	24	32	39
呼吸器内科	6 349	525	2 168	1 654	1 174	650	178
対全領域比率(X1/1000)	20	18	34	25	17	12	6
循環器内科	12 732	788	3 872	3 408	2 521	1 573	570
対全領域比率(X1/1000)	41	27	60	51	37	30	19
消化器内科(胃腸内科)	14 898	933	4 564	3 765	2 997	1 833	806
対全領域比率(X1/1000)	48	32	71	56	45	36	27
腎臓内科	5 024	446	1 779	1 289	833	476	201
対全領域比率(X1/1000)	16	15	28	19	12	9	7
神経内科	5 166	417	1 421	1 383	1 083	625	237
対全領域比率(X1/1000)	17	14	22	21	16	12	8
糖尿病内科(代謝内科)	5 145	446	1 751	1 291	912	534	211
対全領域比率(X1/1000)	16	15	27	19	14	10	7
血液内科	2 737	237	918	730	592	215	45
対全領域比率(X1/1000)	9	8	14	11	9	4	1
アレルギー科	173	6	26	34	34	44	29
対全領域比率(X1/1000)	1						
リウマチ科	1 715	161	675	405	251	151	72
対全領域比率(X1/1000)	5	5	10	6	4	3	2
感染症内科	531	28	220	167	82	28	6
対全領域比率(X1/1000)	2	1	3	2	1	1	
心療内科	917	14	80	214	246	260	103
対全領域比率(X1/1000)	3		1	3	4	5	3
内科系サブ領域	55 562	4 136	17 743	14 550	10 880	6 506	2 535
内科系サブ比率(%)	21	15	30	25	19	15	11
内科系合計	115 790	5 205	22 365	24 038	26 579	3 226	14 377
対全医師比率(%)	37	18	35	36	40	44	47

(参考データ) 総合内科専門医 R2年3月

総合内科専門医	37 968		7 181	14 457	11 121	4 713	496
対認定医比率(%)	43		33	61	56	31	6
対学会員比率(%)	33		27	55	44	24	5
認定内科医	88 954	231	22 000	23 460	19 734	15 132	8 397
対学会員比率(%)	78	4	83	87	79	79	78
日本内科学会会員	114 155	6 145	26 439	26 452	25 088	19 241	10 790

皮膚科	9 362	543	1 868	2 304	2 060	1 687	900
小児科	17 321	942	4 108	3 979	3 241	3 344	1 707
精神科	15 925	573	2 912	4 104	3 781	2 826	1 729
外科	13 751	735	2 499	2 633	3 224	2 676	1 984
呼吸器外科	1 999	107	664	570	443	188	27
心臓血管外科	3 214	190	957	913	748	348	58
乳腺外科	1 995	63	512	581	491	272	76
気管食道外科	79	-	30	33	13	3	-
消化器外科(胃腸外科)	5 530	213	1 705	1 602	1 260	538	212
泌尿器科	7 422	447	1 650	1 779	1 730	1 286	530
肛門外科	428	-	23	84	109	112	100
脳神経外科	7 528	393	1 618	1 747	1 859	1 344	567
整形外科	21 883	900	4 261	5 178	5 475	3 880	2 189
形成外科	2 753	268	973	740	496	222	54
美容外科	678	39	214	230	134	44	17
眼科	13 328	574	2 008	3 449	3 606	2 487	1 204
耳鼻いんこう科	9 288	455	1 622	2 118	2 275	1 809	1 009
小児外科	837	46	306	228	141	93	23
産婦人科	10 778	614	2 700	2 343	2 165	1 757	1 199
産科	554	38	194	143	85	74	20
婦人科	1 944	28	283	413	408	406	406
リハビリテーション科	2 705	67	332	663	727	586	330
放射線科	6 813	456	2 018	1 773	1 537	856	173
麻酔科	9 661	839	3 341	2 453	1 877	973	178
病理診断科	1 993	119	482	430	453	349	160
臨床検査科	604	6	46	117	158	175	102
救急科	3 590	391	1 470	945	558	205	21
臨床研修医	17 321	14 928	2 132	227	29	1	4
全科	229	23	71	41	37	36	21
その他	4 317	93	780	1 113	1 112	761	458
主たる診療科不詳	1 124	17	108	190	258	244	307
診療科不詳	1 219	66	256	223	205	208	261



表2 三師調査・学会アンケート内科系まとめ

三師調査(H28年)まとめ											
	主診療科	全体比(%)	対内科系比率(%)	複数回答	全体比(%)	対内科系比率(%)	専門医	数(人)	全体比(%)	対認定内科医比率(%)	
1	内科	60855	20	53.52	87761	19.21	43.92	総合内科専門医	22522	7.78	25.29
2	呼吸器内科	5987	2	5.27	13405	2.93	6.71	呼吸器専門医	5414	1.87	6.08
3	循環器内科	12456	4.1	10.96	22674	4.96	11.35	循環器専門医	12170	4.21	13.67
4	消化器内科(胃腸内科)	14236	4.7	12.52	29478	6.45	14.75	消化器病専門医	17814	6.16	20
5	肝臓内科		-	-		-	-	肝臓専門医	5384	1.86	6.05
6			-	-		-	-	消化器内視鏡専門医	13537	4.68	15.2
7	腎臓内科	4516	1.5	3.97	6850	1.5	3.43	腎臓専門医	3988	1.38	4.48
8	脳神経内科	4922	1.6	4.33	7617	1.67	3.81	脳神経内科専門医	4518	1.56	5.07
9	糖尿病(代謝)内科	4889	1.6	4.3	9003	1.97	4.51	糖尿病専門医	4768	1.65	5.35
10	内分泌代謝内科		-	-		-	-	内分泌代謝科専門医	2003	0.69	2.25
11	血液内科	2650	0.9	2.33	3456	0.76	1.73	血液専門医	3167	1.09	3.56
12	アレルギー科	162	0.1	0.14	6454	1.41	3.23	アレルギー専門医	3106	1.07	3.49
13	リウマチ科	1613	0.5	1.42	6186	1.35	3.1	リウマチ専門医	4563	1.58	5.12
14	感染症内科	492	0.2	0.43	1326	0.29	0.66	感染症専門医	1141	0.39	1.28
15	老年科		-	-	※	-	-	老年病専門医	1199	0.41	1.35
16	腫瘍内科		-	-		-	-	がん薬物療法専門医	1003	0.35	1.13
17	心療内科	910	0.3	0.8	5617	1.23	2.81	心療内科専門医	305	0.11	0.34
	内科系合計	113688	37.5	100	199827	43.73	100	内科系専門医小計	106602	36.84	119.71
18	小児科	16937			27761			小児科専門医	13551		
19	精神科	15609			17077			精神科専門医	9177		
20	皮膚科	9102			14142			皮膚科専門医	5609		
21	外科	14423			25673			外科専門医	21168		
22	呼吸器外科	1880			2367			呼吸器外科専門医	1422		
23	心臓血管外科	3137			3590			心臓血管外科専門医	2028		
24	乳腺外科	1868			3422			乳腺専門医	1354		
25	気管食道外科	84			931			気管食道科専門医	1016		
26	消化器外科(胃腸外科)	5375			8728			消化器外科専門医	6236		
27	泌尿器科	7062			8490			泌尿器科専門医	6003		
28	肛門外科	443			4352			大腸肛門病専門医	1568		
29	脳神経外科	7360			8027			脳神経外科専門医	6763		
30	整形外科	21293			25106			整形外科専門医	16463		
31	形成外科	2593			3577			形成外科専門医	2141		
32	美容外科	522			1020						
33	眼科	13144			13357			眼科専門医	9812		
34	耳鼻いんこう科	9272			9536			耳鼻咽喉科専門医	7687		
35	小児外科	802			1219			小児外科専門医	545		
36	産婦人科	10854			11042			産婦人科専門医	11242		
37	産科	495			721						
38	婦人科	1805			2376						
39	リハビリテーション科	2484			14815			リハビリテーション科専門医	2516		
40	放射線科	6587			9263			放射線科専門医	5687		
41	麻酔科	9162			10998			麻酔科専門医	7107		
42	病理診断科	1893			1991			病理専門医	1603		
43	臨床検査科	613			842						
44	救急科	3244			4172			救急科専門医	3795		
								小計	144493		
45	臨床研修医	16701			16701				20708		
46	全科	252			252						
47	その他	3998			5588						

304759

555624

251099

その他 小計

29115

資格なし

119964

専門医延総数

280210

	三師調査 診療・専門医比率			内科系学会アンケート結果			算出法・根拠
	複/主	専/主	専/複	学会 専門医数	対象定内科医 比率(%)	学会推定 必要専門医数	
1 内科	1.44	0.37	0.26	37969	42.64		
2 呼吸器内科	2.24	0.90	0.40	6656	7.47	15000	専門医が診るべき患者数199万人?/一人当たり診療患者数約100件)
3 循環器内科	1.82	0.98	0.54	14944	16.78	算出困難	診療区分の線引きは不明確
4 消化器内科(胃腸内科)	2.07	1.25	0.60	21182	23.79	23017	高齢人口増加率(令和27年度/平成30年度) X 平成30年度専門医数
5 肝臓内科	-	-	-	6903	7.75	7600	高齢人口増加率(令和27年度/平成30年度) X 平成30年度専門医数
6	-	-	-	18244	20.49	36488	現在の倍(胃対策型胃がん内視鏡検診、大腸癌検診、消化器内視鏡診療件数の件数増加)
7 腎臓内科	1.52	0.88	0.58	5317	5.97	16562	CKD推定患者数/CKD診療時間(専門医アンケート)
8 脳神経内科	1.55	0.92	0.59	6090	6.84	推計不能	
9 糖尿病(代謝)内科	1.84	0.88	0.58	5929	6.66	10000	
10 内分泌代謝内科	-	-	-	3000	3.37	20000(16500)	診るべき患者数(1030万人)/一人当たり診療数(500)(病床数300以上の約1500病院において、内分泌代謝専門医の内科3、小児科2、産婦人科2、脳神経外科2、泌尿器科2名)
11 血液内科	1.30	1.20	0.92	4286	4.81	5000	一か月あたりの延べ患者数1582,050/専門医実診療人数/勤務日数
12 アレルギー科	39.84	14.10	0.48	3803	4.27	調査中	
13 リウマチ科	3.84	2.83	0.74	4885	5.49	8000	対象患者数 189万人
14 感染症内科	2.70	2.32	0.86	1563	1.76	2886	300床以上の医療機関に2人配置
15 老年科	-	-	-	1451	1.63	2212	1) 大学病院に最低各3名、2) 国立・都立高齢者専門医療機関2施設に最低各10名3) 公的医療機関1,030施設に各1名 4) 療養病床: ※) 312施設に各1名、5) 地域支援病院604施設に各1名
16 腫瘍内科	-	-	-	1330	1.49	5000	米国「血液腫瘍内科専門医」と「腫瘍内科専門医」の合計14,476人との人口比
17 心療内科	6.17	0.34	0.05	323	0.36		
内科系合計				143875	161.56	>151765	
18 小児科	1.64	0.80	0.49				
19 精神科	1.09	0.59	0.54				
20 皮膚科	1.55	0.62	0.40				
21 外科	1.78	1.47	0.82				
22 呼吸器外科	1.26	0.76	0.60				
23 心臓血管外科	1.14	0.65	0.56				
24 乳腺外科	1.83	0.72	0.40				
25 気管食道外科	11.08	12.10	1.09				
26 消化器外科(胃腸外科)	1.62	1.16	0.71				
27 泌尿器科	1.20	0.85	0.71				
28 肛門外科	9.82	3.54	0.36				
29 脳神経外科	1.09	0.92	0.84				
30 整形外科	1.18	0.77	0.66				
31 形成外科	1.38	0.83	0.60				
32 美容外科	1.95	0.00	0.00				
33 眼科	1.02	0.75	0.73				
34 耳鼻いんこう科	1.03	0.83	0.81				
35 小児外科	1.52	0.68	0.45				
36 産婦人科	1.02	1.04	1.02				
37 産科	1.46	0.00	0.00				
38 婦人科	1.32	0.00	0.00				
39 リハビリテーション科	5.96	1.01	0.17				
40 放射線科	1.41	0.86	0.61				
41 麻酔科	1.20	0.78	0.65				
42 病理診断科	1.05	0.85	0.81				
43 臨床検査科	1.37	0.00	0.00				
44 救急科	1.29	1.17	0.91				
45 臨床研修医	1.00	15.03	15.03				
46 全科	1.00	0.00	0.00				
47 その他	1.40	0.00	0.00				

表3：患者数調査と専門医数調査

	対象疾患	患者数 (単位：千人)	備考	学会推定専門医が診るべき患者数 (単位：千人)	必要専門医数(学会推計)	必要養成数(学会推計)	現存専門 医数		
					患者数ベース学会推計	施設数ベース学会推計			
1	日本腎臓学会	慢性腎臓病	393	平成29年政府統計患者調査より	6770 (ガイドラインで腎臓専門医診るべき一般住民のCKD)	11506 (専門医アンケートによるCKD実働診療時間数をベースに試算)			
		ネフローゼ症候群	16	難病情報センターより					
		AKI(急性腎障害)	-		16				
		非典型型溶血性尿毒症症候群(aHUS)	0.2	難病情報センターより					
		多発性嚢胞腎(PKD)	30	難病情報センターより					
		急速進行性腎炎症候群	5	平成29年政府統計患者調査より					
		慢性糸球体腎炎(IGA腎症)	478	平成29年政府統計患者調査より	20				
		慢性維持透析	339.8	日本透析医学会統計委員会	339.8				
	総計					16562 (専門医アンケートによるCKD理想診療時間数をベースに試算)	522 (2035年必要数達成のため)	5,317	
2	日本感染症学会	敗血症	6	平成29年政府統計患者調査より		300床以上医療機関に2人	必要数一現存数		
		発熱性好中球減少症	2	平成29年政府統計患者調査より					
		細菌性髄膜炎	-	髄膜炎はある					
		感染性心内膜炎	-						
		中耳炎	218	平成29年政府統計患者調査より					
		鼻副鼻腔炎	187	平成29年政府統計患者調査より					
		急性咽頭炎	137	平成29年政府統計患者調査より、H5時点					
		急性扁桃炎	98	平成29年政府統計患者調査より、H5時点					
		呼吸器感染症	-						
		骨髄炎	7	平成29年政府統計患者調査より					
		性感染症	25	平成29年政府統計患者調査より					
	総計					2,886	1,323	1,563	2020/1/29 現在
3	日本内分泌学会	甲状腺疾患	5000-7000	日本甲状腺学会HPより	873 (顕性機能異常全例、潜在性甲状腺異常の10%、パセドウ病)				
		副甲状腺及びカルシウム代謝異常	-		855 (骨粗鬆症の5%64万人、CKD-MBDの5%7.5万人、副甲状腺機能低下31万人の全例)				
		副腎疾患	-		2904-4440 (全例)				
		性腺疾患	-		1315 (続発性無月経40万人、Klinefelter症候群6万人(全例)多義総卵巣症候群67.5万人、更年期障害の5%15万人)				
		糖尿病	20,000	平成28年 厚生労働省 国民健康・栄養調査結果の概要	2000 (1, 2型糖尿病の10%)				
		脂質異常症	2,205	平成29年政府統計患者調査より	1130 (全例の5%)				
		肥満症	10	平成29年政府統計患者調査より	387 (BMI30以上38.5万人、二次性肥満症Prader-Willi症候群2000人)				
		高尿酸血症	-		800 (全例の5%)				
		視床下部・下垂体疾患	-		35 (うち難病指定 25)				
		更年期関連疾患	166	平成14年政府統計患者調査より					
		下垂体前葉機能低下症	17	難病情報センターより					
	総計			10,300	20,000 (専門医当たり500症例)	16,500 (病床数300以上の約1,500病院において、内分泌代謝専門医の内科3、小児科2、産婦人科2、脳神経外科2、泌尿科2名)	3,000	2019/5/20 現在	
4	日本糖尿病学会	I型糖尿病	100-140	2018年 厚生労働省					
		糖尿病	20,000	平成28年 厚生労働省 国民健康・栄養調査結果の概要					
	総計						5,929	2019/10/4 現在	
5	日本老年学会	老年疾患・老年症候群(認知症、フレイル・サルコペニア、骨粗鬆症、ポリファーマシーなど)	-			1) すべての大学病院； C列) 82施設に最低各3名 2) 国立・都立高齢者専門医療機関(国立長寿研究センター、東京都健康長寿医療センター)； D列) 2施設に最低各10名 3) 公的医療機関(都道府県、市町村、地方独立、北海道社会事業協会、厚生連)； E列) 1,030施設に各1名 4) 療養病床； F列) 312施設に各1名 5) 地域支援病院(地域の病院、診療所などを後方支援する200床以上の病院で、二次医療圏当たり一つ以上存在することが望ましいとされている)； G列) 604施設に各1名	1,451	2020/1/6 現在	
	総計				2,212	970	1548		
6	日本アレルギー学会(Japanese Society of Allergy)	喘息	1117	平成29年政府統計患者調査より					
		食物アレルギー	-						
		アトピー性皮膚炎	456	平成29年政府統計患者調査より					
		アナフィラキシー	-						
		アレルギー性鼻炎	663	平成29年政府統計患者調査より					
		結膜炎	278	平成29年政府統計患者調査より					
	総計						3,803	2019/8/20 現在	
7	日本呼吸器学会	重症喘息 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 肺腫瘍	260	2014年厚生労働省	360 530 250				
		成人肺炎	71	平成29年政府統計患者調査より	14(7月)				
		肺結核・非結核性抗酸菌症	-		38				
		睡眠時無呼吸症候群	-		600				
		慢性呼吸不全	-		140				
		急性呼吸不全	-		8.5				
		その他の呼吸器専門医が主として診る疾患	-		50				
		急性呼吸窮迫症候群(ARDS)	12	JAMA. 2016. 315(8):788-800					
		特発性肺線維症	15	難病情報センターより					
	総計				15,000		6,656	2019/10/24 現在	





	対象疾患	厚生省三師調査							
		診療科医師数 (複数可)	構成割合 (%) (病院医 師%)	主診療科医師数	構成割合 (%) (病院医 師%)	専門医数	構成割合 (%) (病 院医 師%)		
1	慢性腎臓病							特定医療費(指定難病)受給者証所持者数 腎臓関 連: IgA腎症 7,796 顕微鏡的多発血管炎 8,669 多発性嚢胞腎 8,011 多発血管炎性肉芽腫症 2,554 アルポート症候群 107 好酸球性多発血管炎性肉芽 腫症 2,640 急速進行性糸球体腎炎 549 血性性血小 板減少性紫斑病 182 抗糸球体基底膜腎炎 134 非典 型溶血性尿毒症症候群 60 一次性ネフローゼ症候群 7,700 間質性膀胱炎(ハンナ型) 542 一次性慢性 増殖性糸球体腎炎 153 全身性エリテマトーデス 80,446 薬疹病性腎炎 500 全身性アミロイドーシス 2,471 IgG4関連疾患 1,428 サルコイドーシス 15,047 ネイロパチア症候群/LMX1-B関連腎症 5	日本腎臓学会
	ネフローゼ症候群								
	AKI(急性腎障害)								
	非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)								
	多発性嚢胞腎(PKD)								
	急速進行性腎炎症候群								
	慢性糸球体腎炎(IgA腎 症)								
慢性維持透析									
総計		6,850 (4,526)	22 (22)	4,516 (3,689)	15 (18)	3,988(2,761)	13 (14)	総計	
2	敗血症							1. 難病の患者に対する医療等に関する法律施工規則 第15条第1項第1号に規定する厚生労働大臣が定め る認定機関が認定する専門医の資格に該当 2. 児童福祉法施工規則第7条10第1項第1号に規定 する厚生労働大臣が定める認定機関が認定する専門 医の資格に該当 3. 国立感染症研究所作成の「蚊媒感染症の診療 ガイドライン」において 「ジカウイルス感染が疑われる妊婦については日本 感染症学会が公表しているジカウイルス感染症協力 医療機関などの 専門医療機関に紹介し母体のジカウイルス感染症の 評価を実施することを検討する。」とあり このジカウイルス感染症協力医療機関は感染症専門 医研修施設の多くが参加している。	日本感染症学会
	発熱性好中球減少症								
	細菌性髄膜炎								
	感染性心内膜炎								
	中耳炎								
	鼻副鼻腔炎								
	急性咽頭炎								
	急性扁桃炎								
	呼吸器感染症 骨髄炎								
	性感感染症								
	総計		1,326 (868)	4 (4)	492 (473)	2 (2)	1,141 (909)		
3	甲状腺疾患							・ 下垂体性 AMH 分泌異常症、下垂体性 TSH 分泌 亢進症、下垂体性 PRL 分泌亢進症、クッシング 病、下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症、下垂体性 成長ホルモン分泌亢進症、下垂体前葉機能低下症 ・ 患者数(平成 28 年度医療受給者証保持者数 24,647 人)・ 甲状腺ホルモン不応症 約 3,000 人 (研究班による)・ 先天性副腎皮質酵素欠損症(研 究班による)約 1,800 人・ 先天性副腎低形成症(研 究班による)約 1,000 人・ アジソン病 約 1,000 人(研究班による)・ ウォルフラム症候群 約 200 人・ 副甲状腺機能低下症 約 900 人・ 偽性副甲 状腺機能低下症 約 400 人・ 副腎皮質刺激ホルモン 不応症 100 人未満・ ビタミン D 依存性くる病 (骨軟化症 100 人未満・ IgG4 関連疾患約 8,000 人・ 軟骨無形成症 6,000 人・ 骨形成不 全症 約 6,000 人・ 脂肪萎縮症 約 100 人・ 無 βリポタンパク血症 100 人未満・ 原発性高カイ ロミクロン血症 約 200 人・ カルシノール 100 人未満・ 22q11.2 欠失症候群約 4,500 人・ ア ンジェルマン症候群 約 1000 名(平成 21 年)・ ヌーナン症候群 約 600 人・ プラダー・ウィリ症 候群 約 2000 名(平成 21 年)・ ウェルナー症候 群 約 2000 人(平成 21 年)・ 歌舞伎症候群 約 4000 人(平成 21 年)・ 家族性高コレステロール 血症(ホモ接合体)ホモ接合体患者は 100 万人に 1 人・ 神経線維腫症(平成 24 年度医療受給者証保 持者数)3,588 人・ ミトコンドリア病(平成 24 年度医療受給者証保持者数)1,087 人・ 副腎白質 ジストロフィー 193 人(平成 24 年)	日本内分泌学会
	副甲状腺及びカルシウム 代謝異常								
	副腎疾患								
	性腺疾患								
	糖尿病								
	脂質異常症								
	肥満症								
	高尿酸血症								
	視床下部・下垂体疾患								
	更年期関連疾患								
	下垂体前葉機能低下症								
総計						2,003 (1,428)	7 (7)	総計	
4	I 型糖尿病、 糖尿病							・ 糖尿病は、医療法に基づき都道府県が策定する医 療計画における「五疾病五事業」の一つ、日本糖尿 病学会は、日本医師会、日本糖尿病協会と「日本糖 尿病対策推進会議」を設立し、糖尿病専門医は活動 の中核。	日本糖尿病学会
	総計		9,003 (5,155)	30 (25)	4,889 (4,040)	16 (20)	4,768 (3082)		
5	老年疾患、老年症候群 (認知症、フレイル・サ ルコペニア、骨粗鬆症、 ポリファーマシーなど)							運転免許の臨時適性検査認定医など	日本老年学会
	総計						1,199 (813)		
6	喘息							国の医療費助成制度の診断書作成: ★アレ ルギー疾患対策基本法 ★アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針 (アレルギー疾患対策基本法第 11 条に関して策定 された基本的な指針)	日本アレルギー学会 (Japanese Society of Allergology)
	食物アレルギー								
	アトピー性皮膚炎								
	アナフィラキシー								
	アレルギー性鼻炎								
総計		6,454 (832)	21 (4)	162 (95)	1 (0)	3,106 (1,695)	10 (8)	総計	
7	重症喘息 慢性閉塞性肺疾患(COPD)							「神経学的検査」の施設基準として、 (1) 神経内科、脳神経外科又は小児科を標榜してい る保険医療機関。 (2) 「神経学的検査」に関する所定の研修を修了した 神経内科、脳神経外科又は小児科を担当する常勤の 医師(専ら神経系疾患の診療を担当した経験を10年 以上有するものに限る)が1名以上配置。	日本呼吸器学会
	肺腫								
	成人肺炎								
	肺結核・非結核性抗酸菌 症								
	睡眠時無呼吸症候群								
	慢性呼吸不全								
	急性呼吸不全								
	その他の呼吸器専門医が 主として診る疾患								
	急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)								
	特発性肺線維症								
総計		13,405 (6,849)	44 (34)	5,987 (5,407)	20 (27)	5414 (4,125)	18 (20)	総計	

	対象疾患	厚労省三師調査									
		診療科医師数 (複数可)	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 主診療科医師数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 専門医数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	%			
8	日本神経学会	ジストニア								「神経学的検査」の施設基準として、 (1) 神経内科、脳神経外科又は小児科を標榜している 保険医療機関。 (2) 「神経学的検査」に関する所定の研修を修了した 神経内科、脳神経外科又は小児科を担当する常勤の 医師（専ら神経系疾患の診療を担当した経験を10年 以上有するものに限る）が1名以上配置。	日本神経学会
		脊髄小脳変性症・多系統 萎縮症									
		パーキンソン病									
		てんかん									
		単純ヘルペス脳炎									
		認知症疾患									
		多発性硬化症・視神経脊 髄炎									
		細菌性髄膜炎									
		アジュランス型筋ジスト ロフィー									
		重症筋無力症									
		筋萎縮性側索硬化症									
		慢性頭痛									
		慢性炎症性脱髄性多発根 ニューロパチー									
		多巣性運動ニューロパチ ー									
		ギラン・バレー症候群									
		フィッシュヤー症候群									
		パーキンソン以外の基底 核疾患									
運動ニューロン疾患											
脳卒中											
総計		7,617 (5,292)	25 (26)	4,922 (4,446)	16 (22)	4,518 (3,609)	15 (18)		総計		
9	日本血液学会	白血病							指定難病名： 再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグ ロビン尿症、先天性赤血球形成異常性貧血	日本血液学会	
		急性骨髄性白血病									
		骨髄異形成症候群									
		悪性リンパ腫									
		ホジキンリンパ腫 (HL)									
		多発性骨髄腫 (MM)									
		再生不良性貧血 特発性血小板減少性紫斑 病 (ITP)									
総計		3,456 (3,016)	11 (15)	2,650 (2,631)	9 (13)	3,167 (2,728)	10 (13)	総計			
10	日本リウマチ学会	関節リウマチ							リウマチ専門医は難病法に基づく難病指定医の要件 として厚生労働大臣が定める認定機関が認定する専 門医資格の一つである。リウマチ科は肢体不自由の 医療に関わる診療科であり、リウマチ専門医はリウ マチ科において診療に従事し、かつ、その診断に関 する相当の学識経験を有する医師であることから、 身体障害者福祉法第15条で指定される身体障害者診 断書・意見書の作成が可能な専門医資格の一つであ る。	日本リウマチ学会	
		全身性エリテマトーデス									
		強皮症									
		変形性膝疾患									
		血管炎候群									
		帯状疱疹全頭発症									
		シェーグレン症候群									
		ベーチェット病									
		強直性脊椎炎									
		若年性特発性関節炎									
痛風											
総計		6,186 (2,655)	20 (13)	1,613 (1,419)	5 (7)	4,563 (2,746)	15 (14)	総計			
11	日本臨床腫瘍学会	癌化学療法							・ がん診療連携拠点病院（都道府県及び地域）の 指定要件に「化学療法の専門医」 ・ オプジーボによる「切除不能な進行・再発の非 小細胞肺癌」及び「再発又は難治性の古典的ホジ キンリンパ腫」の治療が受けられる施設・医師要件 にがん薬物療法専門医認定者（在籍）	日本臨床腫瘍学会	
		原発不明がん									
		発熱性好中球減少症 (FN)									
総計						1,003 (961)	3 (5)	総計			
12	日本消化器内視鏡 学会 (Japan Gastroenterologi c Society)	早期胃癌							難病指定医と認定されるための基本学会として認定 (官報)	日本消化器内視鏡学会 (Japan Gastroenterological Society)	
		大腸がん									
総計						1,3537 (8,673)	44 (43)	総計			
13	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)	急性冠症候群							①難病関連診断書、②心臓機能障害者認定書 類、③ペースメーカー・ICD管理、④高度先進医療 施設認定 (TAVI/MItral Clip/Imperella/VAL) など	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)	
		慢性冠動脈疾患									
		不安定冠動脈疾患									
		心筋症									
		不整脈									
		急性・慢性心不全									
		感染性心内膜炎									
		遺伝性不整脈									
		肺高血圧症									
		成人先天性心疾患									
		肺血栓塞栓症および深部 静脈血栓症									
		肺動脈瘤									
		心臓移植									
		心臓サルコイドシス									
		末梢閉塞性動脈疾患									
		慢性肺動脈血栓塞栓症									
総計		22,674 (12,337)	74 (61)	12,456 (10,489)	41 (52)	12170 (8,118)	40 (40)	総計			

	対象疾患	厚労省三師調査								
		診療科医師数 (複数可)	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 主診療科医師数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 専門医数	% 構成割合 (%) (病 院医 師%)	%		
14	日本肝臓学会 (The Japan Society of Hepatology)	B型肝炎							・ 肝炎対策基本法に基づく肝炎医療費助成制度の ための診断書作成（平成25年度、26年度、27年度、 28年度、29年度の5年間のC型肝炎に対する医療費助 成交付件数は、17,758件、37,288件、91251件、 49859件、31779件（厚生労働省 肝炎医療費助成対 象者調）、新規薬剤の導入のために平成26年度より 交付数が急激に増加、極めて高いウイルス排除率の ために対象となる患者数が減少。	日本肝臓学会
		C型肝炎								
		NASH								
		NAFLD								
		肝及び肝内胆管癌								
	総計					5,384 (3,887)	18 (19)		総計	
15	日本消化器病学会	食道炎・食道潰瘍・胃食 道逆流症（GERD） 食道癌							難病医療費助成制度の指定医制度 ・ 申請手続きの要件 ・ クロロン病、潰瘍性大腸炎、パッド・キアリ症候 群などの診断書の作成  肝炎治療費助成制度（肝臓専門医が不足している医 療圏においては一定の講習を受け ることにより消化器専門医も可能となる） ・ インターフェロン治療等の要件 ・ 肝炎治療に関する診断書の作成	日本消化器病学会
		胃癌								
		結腸及び直腸癌								
		結腸癌								
		直腸S状結腸以降及び 直腸癌								
		肝及び肝内胆管癌								
			膵癌							
	総計	29,478 (13,850)	97 (68)	14,236 (10,847 )	47 (54)	1,7814 (11,933)	58 (59)		総計	
16	心身症（心療内科 +心身症学会）	心身症								
	総計	5,617 (1,933)	18 (10)	910 (264 )	3 (1)	305 (144)	1 (1)		心療内科	
	<b>内科系サブ 領域</b>	<b>112,065 (67,313 )</b>	<b>348 (272)</b>	<b>52,833 (43,800)</b>	<b>176(216)</b>	<b>83,775 (67,468)</b>	<b>276 (284)</b>			
	内科	87,761 (35,044)	288 (173)	60,855 (21,981 )	200(109)				内科	
17	総合内科専門医					22,522 (15,513)	74 (77)		総合内科専門医	
18	認定内科医								認定内科医	
	<b>内科系専門 医</b>	<b>199,826 (92357)</b>	<b>636 (445)</b>	<b>113,688 (65,781)</b>	<b>375 (325)</b>	<b>106,297 (72,981)</b>	<b>350 (361)</b>			

表 3 : 患者数調査と専門医数調査 (文字拡大)

		対象疾患	患者数 (単位:千人)	備考	学会推定専門医が診るべき患者数 (単位:千人)
1	日本腎臓学会	慢性腎臓病	393	平成29年政府統計患者調査より	6770 (ガイドラインで腎臓専門医診るべき一般住民のCKD)
		ネフローゼ症候群	16	難病情報センターより	
		AKI(急性腎障害)	-		16
		非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)	0.2	難病情報センターより	
		多発性嚢胞腎 (PKD)	30	難病情報センターより	
		急速進行性腎炎症候群	5	平成29年政府統計患者調査より	
		慢性糸球体腎炎 (IgA腎症)	478	平成29年政府統計患者調査より	20
		慢性維持透析	339.8	日本透析医学会統計委員会	339.8
	総計				
2	日本感染症学会	敗血症	6	平成29年政府統計患者調査より	
		発熱性好中球減少症	2	平成29年政府統計患者調査より	
		細菌性髄膜炎	-	髄膜炎はある	
		感染性心内膜炎	-		
		中耳炎	218	平成29年政府統計患者調査より	
		鼻副鼻腔炎	187	平成29年政府統計患者調査より	
		急性咽頭炎	137	平成29年政府統計患者調査より、H5時点	
		急性扁桃炎	98	平成29年政府統計患者調査より、H5時点	
		呼吸器感染症	-		
		骨髄炎	7	平成29年政府統計患者調査より	
		性感染症	25	平成29年政府統計患者調査より	
			総計		
3	日本内分泌学会	甲状腺疾患	5000-7000	日本甲状腺学会HPより	873 (顕性機能異常全例、潜在性甲状腺異常の10%、バセドウ眼症)
		副甲状腺及びカルシウム代謝異常	-		855 (骨粗鬆症の5%64万人、CKD-MBDの5%7.5万人、副甲状腺機能亢進 11万人や続発性副甲状腺機能低下3万人の全例)
		副腎疾患	-		2904~4440 (全例)
		性腺疾患	-		1315 (続発性無月経40万人、Klinefelter症候群6万人(全例)多嚢胞卵巣症候群67.5万人、更年期障害の5%18万人)
		糖尿病	20,000	平成28年 厚生労働省 国民健康・栄養調査結果の概要	2000 (1, 2型糖尿病の10%)
		脂質異常症	2,205	平成29年政府統計患者調査より	1130 (全例の5%)
		肥満症	10	平成29年政府統計患者調査より	387 (BMI30以上38.5万人、二次性肥満症 Prader-Willi症候群2000人)
		高尿酸血症	-		800 (全例の5%)
		視床下部・下垂体疾患	-		35 (うち難病指定 25)
		更年期関連疾患	166	平成14年政府統計患者調査より	
		下垂体前葉機能低下症	17	難病情報センターより	
			総計		
4	日本糖尿病学会	I型糖尿病、	100-140	2018年 厚生労働省	
		糖尿病	20,000	平成28年 厚生労働省 国民健康・栄養調査結果の概要	
	総計				

		対象疾患	患者数 (単位：千人)	備考	学会推定専門医が診るべき患者数（単位：千人）
5	日本老年学会	老年疾患・老年症候群 (認知症、フレイル・サルコペニア、骨粗鬆症、ポリファーマシーなど)	-		
		総計			
6	日本アレルギー学会 (Japanese Society of Allergology)	喘息	1117	平成29年政府統計患者調査より	
		食物アレルギー	-		
		アトピー性皮膚炎	456	平成29年政府統計患者調査より	
		アナフィラキシー	-		
		アレルギー性鼻炎	663	平成29年政府統計患者調査より	
		結膜炎	278	平成29年政府統計患者調査より	
		総計			
7	日本呼吸器学会	重症喘息			360
		慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	260	2014年厚生労働省	530
		肺癌			250
		成人肺炎	71	平成29年政府統計患者調査より	14(7月)
		肺結核・非結核性抗酸菌症			38
		睡眠時無呼吸症候群			600
		慢性呼吸不全			140
		急性呼吸不全			8.5
		その他の呼吸器専門医が主として診る疾患			50
		急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)	12	JAMA. 2016. 315(8):788-800	
		特発性肺線維症	15	難病情報センターより	
		総計			
8	日本神経学会	ジストニア	20	難病情報センターより	
		脊髄小脳変性症・多系統萎縮症	30	難病情報センターより	26
		パーキンソン病	162	平成29年政府統計患者調査より	約131
		てんかん	218	平成29年政府統計患者調査より	
		単純ヘルペス脳炎	-		
		認知症疾患	-		
		多発性硬化症・視神経脊髄炎	8	平成29年政府統計患者調査より	19
		細菌性髄膜炎	-	髄膜炎はある	
		デュシェンヌ型筋ジストロフィー	6	平成29年政府統計患者調査より	
		重症筋無力症	11	平成29年政府統計患者調査より	23
		筋萎縮性側索硬化症	8	平成29年政府統計患者調査より	
		慢性頭痛	30	平成29年政府統計患者調査より	
		慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー	4.6	難病情報センターより	
		多巣性運動ニューロパチー	2	難病情報センターより	
		ギラン・バレー症候群	-		
		フィッシャー症候群	-		
		パーキンソン以外の基底核疾患			12
		運動ニューロン疾患			11
		脳卒中			
		総計			

		対象疾患	患者数 (単位：千人)	備考	学会推定専門医が診るべき患者数（単位：千人）
9	日本血液学会	白血病	32	平成29年政府統計患者調査より	白血病 29.5 延人日438
		急性骨髄性白血病	-		骨髄増殖性腫瘍118.1延人日118.6
		骨髄異形成症候群	-		MDS 68.3 延人日 153.2
		悪性リンパ腫	-		悪性リンパ腫 99.7 延人日393.5
		ホジキンリンパ腫 (HL)	2	平成29年政府統計患者調査より	
		多発性骨髄腫 (MM)	25	平成29年政府統計患者調査より	多発性骨髄腫 21.9 延人日41.7
		再生不良性貧血	-		再生不良性貧血5.08延人日9.8
		特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	-		ITP 20.25 延人日 21.25
			-		その他 200 延人日400
	総計				延人日 1,582,050
10	日本リウマチ学会	関節リウマチ	373	平成29年政府統計患者調査より	約800
		全身性エリテマトーデス			63
		強皮症			31
		炎症性筋疾患			21
		血管炎症候群			29
		混合性結合組織病			10
		シェーグレン症候群			11
		ベーチェット病			19
		強直性脊椎炎			1.9
		若年性特発性関節炎			0.12
		痛風			約900
	総計				
11	日本臨床腫瘍学会	癌化学療法			複数年にわたり全身化学療法をしている患者約900-1000
		原発不明がん	-		
		発熱性好中球減少症 (FN)	-		
	総計				
12	日本消化器内視鏡学会 (Japan Gastroenterologi)	早期胃癌	-		胃対策型胃がん内視鏡検診件数200 万件 (10%)
		大腸がん	155	国立がんセンター (2019年予測)	消化器内視鏡診療件数は 1500 万件 大腸癌検診 (大腸癌死亡数 5万人)
	総計				
13	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)	急性冠症候群	-		
		慢性冠動脈疾患	-		
		安定冠動脈疾患	-		
		心筋症	43	平成29年政府統計患者調査より	
		不整脈	296	平成29年政府統計患者調査 (H5時点) より	
		急性・慢性心不全	336		
		感染性心内膜炎	-		
		遺伝性不整脈	-		
		肺高血圧症	1.6	日本呼吸器学会より	
		成人先天性心疾患	-		
		肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症	8	難病情報センターより	
		血管炎症候群	-		
		心臓移植	0.056	日本移植学会HPより (2017年)	
		心臓サルコイドシス	-		
		末梢閉塞性動脈疾患	-		
		慢性肺動脈血栓塞栓症	-		
	総計				

		対象疾患	患者数 (単位：千人)	備考	学会推定専門医が診るべき患者数（単位：千人）
14	日本肝臓学会 (The Japan Society of Hepatology)	B型肝炎	70	平成20年政府統計患者調査より	79
		C型肝炎	370	平成20年政府統計患者調査より	
		NASH	2,000	日本消化器病学会ガイドラインより	
		NAFLD	10,000	日本消化器病学会ガイドラインより	
		肝及び肝内胆管癌	56	平成29年政府統計患者調査より	
		総計			
15	日本消化器病学会	食道炎・食道潰瘍・胃食道逆流症（GERD）	21,182	2020/1/17 現在	
		食道癌		平成29年政府統計患者調査より	
		胃癌	196	平成29年政府統計患者調査より	
		結腸及び直腸癌	288	平成29年政府統計患者調査より	
		結腸癌	196	平成29年政府統計患者調査より	
		直腸S状結腸以降及び直腸癌	92	平成29年政府統計患者調査より	
		肝及び肝内胆管癌	56	平成29年政府統計患者調査より	
		膵癌	51	平成29年政府統計患者調査より	
	総計				
16	心身症（心療内科＋心身症学会）	心身症			
	総計				
	内科系サブ領域				
	内科				
17	総合内科専門医				
18	認定内科医				
	内科系専門医				
	総計				

表3：患者数

		対象疾患	必要専門医数（学会推計）		必要養成数(学会推計)	現存専門医数	
			患者数ベース学会推計	施設数ベース学会推計			
1	日本腎臓学会	慢性腎臓病	11506（専門医アンケートによるCKD実働診療時間数をベースに試算）				
		ネフローゼ症候群					
		AKI(急性腎障害)					
		非典型性溶血性尿毒症症候群（aHUS）					
		多発性嚢胞腎（PKD）					
		急速進行性腎炎症候群					
		慢性糸球体腎炎（IgA腎症）					
		慢性維持透析					
	総計		16562（専門医アンケートによるCKD理想診療時間数をベースに試算）		522（2035年必要数達成のため）	5,317	
2	日本感染症学会	敗血症		300床以上医療機関に2人	必要数一現存数		
		発熱性好中球減少症					
		細菌性髄膜炎					
		感染性心内膜炎					
		中耳炎					
		鼻副鼻腔炎					
		急性咽頭炎					
		急性扁桃炎					
		呼吸器感染症					
		骨髄炎					
		性感染症					
	総計		2,886	1,323		1,563	2020/1/29現在
3	日本内分泌学会	甲状腺疾患					
		副甲状腺及びカルシウム代謝異常					
		副腎疾患					
		性腺疾患					
		糖尿病					
		脂質異常症					
		肥満症					
		高尿酸血症					
		視床下部・下垂体疾患					
		更年期関連疾患					
		下垂体前葉機能低下症					
	総計		20,000（専門医当たり500症例）	16,500（病床数300以上の約1,500病院において、内分泌代謝専門医の内科3、小児科2、産婦人科2、脳神経外科2、泌尿器科2名）		3,000	2019/5/20現在
4	日本糖尿病学会	I型糖尿病、					
		糖尿病					
	総計					5,929	2019/10/4現在

		対象疾患	必要専門医数(学会推計)	必要養成数(学会推計)	現存専門医数		
			患者数ベース学会推計	施設数ベース学会推計			
5	日本老年学会	老年疾患・老年症候群 (認知症、フレイル・サルコペニア、骨粗鬆症、ポリファーマシーなど)		1) すべての大学病院；C列) 82施設に最低各3名 2) 国立・都立高齢者専門医療機関(国立長寿研究センター、東京都健康長寿医療センター)；D列) 2施設に最低各10名 3) 公的医療機関(都道府県、市町村、地方独立、北海道社会事業協会、厚生連)；E列) 1,030施設に各1名 4) 療養病床；F列) 312施設に各1名 5) 地域支援病院(地域の病院、診療所などを後方支援する200床以上の病院で、二次医療圏当たり一つ以上存在することが望ましいとされている)；G列) 604施設に各1名		1,451	2020/1/6 現在
	総計		2,212	970	1548		
6	日本アレルギー学会(Japanese Society of Allergology)	喘息 食物アレルギー アトピー性皮膚炎 アナフィラキシー アレルギー性鼻炎 結膜炎					
	総計		<調査中>		3,803	2019/8/20 現在	
7	日本呼吸器学会	重症喘息 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 肺癌 成人肺炎 肺結核・非結核性抗酸菌症 睡眠時無呼吸症候群 慢性呼吸不全 急性呼吸不全 その他の呼吸器専門医が主として診る疾患 急性呼吸窮迫症候群(ARDS) 特発性肺線維症	専門医一人当たり診療患者数：重症喘息24人、症状があり増悪経験のあるCOPD 53人、肺癌 17人以上(新患8人)、肺炎：約1人、結核・非結核性抗酸菌症 3人、睡眠時無呼吸症候群 4名、急性呼吸不全0.56人、慢性呼吸不全9.3人、その他希少疾患 2人、ほかに気管支鏡検査 年間7件(20%が検査するとすれば35件、3名とすれば約100件)				
	総計		15,000		6,656	2019/10/24 現在	
8	日本神経学会	ジストニア 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 パーキンソン病 てんかん 単純ヘルペス脳炎 認知症疾患 多発性硬化症・視神経脊髄炎 細菌性髄膜炎 デュシェンヌ型筋ジストロフィー 重症筋無力症 筋萎縮性側索硬化症 慢性頭痛 慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー 多巣性運動ニューロパチー ギラン・バレー症候群 フィッシャー症候群 パーキンソン以外の基底核疾患 運動ニューロン疾患 脳卒中					
	総計				6,090	2019/12/17 現在	
						「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」に基づいて計画が進行中の「脳卒中センター」施設基準 脳卒中専門医1名の配置	

		対象疾患	必要専門医数 (学会推計)	必要養成数(学会推計)	現存専門医数	
			患者数ベース学会推計	施設数ベース学会推計		
9	日本血液学会	白血病				
		急性骨髄性白血病				
		骨髄異形成症候群				
		悪性リンパ腫				
		ホジキンリンパ腫 (HL)				
		多発性骨髄腫 (MM)				
		再生不良性貧血 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)				
総計		約5,000名 (一か月あたりの延べ患者数/専門医実診療人数/勤務日数=一日当たりの診療患者数=19,88749÷20人/			4,286	2019/10/7 現在
10	日本リウマチ学会	関節リウマチ				
		全身性エリテマトーデス				
		強皮症				
		炎症性筋疾患				
		血管炎症候群				
		混合性結合組織病				
		シェーグレン症候群				
		ベーチェット病				
		強直性脊椎炎				
		若年性特発性関節炎				
痛風						
総計		8,000			4,885	2019/12/12 現在
11	日本臨床腫瘍学会	癌化学療法	約5,000名 (米国「血液腫瘍内科専門医」と「腫瘍内科専門医」の合計) 14,476人との人口比)	約3,000人(がん診療連携拠点病院)に複数配置)		
		原発不明がん				
		発熱性好中球減少症 (FN)				
総計					1,330	2019/12/18 現在
12	日本消化器内視鏡学会 (Japan Gastroenterologi)	早期胃癌				
		大腸がん				
		総計	現在の倍 36,488			18,244
13	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)	急性冠症候群				
		慢性冠動脈疾患				
		安定冠動脈疾患				
		心筋症				
		不整脈				
		急性・慢性心不全				
		感染性心内膜炎				
		遺伝性不整脈				
		肺高血圧症				
		成人先天性心疾患				
		肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症				
		血管炎症候群				
		心臓移植				
		心臓サルコイドーシス				
		末梢閉塞性動脈疾患				
		慢性肺動脈血栓塞栓症				
総計		診療区分の線引きは明確ではありません。したがってこの情報から必要数を算出することは困難			14,944	2019/9/5 現在

		対象疾患	必要専門医数 (学会推計)		必要養成数(学会推計)	現存専門 医数	
			患者数ベース学会推計	施設数ベース学会推計			
14	日本肝臓学会 (The Japan Society of Hepatology)	B型肝炎 C型肝炎 NASH NAFLD 肝及び肝内胆管癌	高齢人口 (65歳以上) 増加率 (令和27年度 3,920万人/平成30年度3,558万人) X 平成 30年度専門医数 (6909名)		現在の50歳以上の肝臓専門医 3643名。65歳を医療機関の定 年と考えると、平均毎年242 名の専門医が減少 (3643/15=242)。 →毎年267名(25+242)の新規 肝臓専門医を確保する必要 →専門医試験合格者を60%と 想定した場合、専攻医は445 名/年の継続的な育成が必要		
	総計		7600		445名/年 (専攻医)	6,903	2020/1/6 現在
15	日本消化器病学会	食道炎・食道潰瘍・胃食 道逆流症 (GERD) 食道癌 胃癌       結腸及び直腸癌 結腸癌 直腸S状結腸以降及び 直腸癌    肝及び肝内胆管癌       膵癌	高齢人口 (65歳以上) 増加率 (令和27年度 3,920万人/平成30年度3,558万人) X 平成 30年度専門医数 (20,891名)		27年間に毎年79名の有資格者 増が必要である。(23,017- 20,891)/27) 平成30年度の50歳以上の消化 器病専門医(内科系)で56歳か ら65歳の医師は4,059名。65 歳を医療機関の定年と考える と、平均毎年定年等で毎年 406名の専門医が減少。 →毎年485名(79+406)の新規 肝臓専門医を確保する必要 →専門医試験合格者を60%と 想定した場合、専攻医は800 名/年の継続的な育成が必要		
	総計		23,017		専攻医レベル 800/年 (専 門医485/年)	21,182	2020/1/17 現在
16	心身症 (心療内科 士心身症学会)	心身症					
	総計					323	
	<b>内科系サブ領域</b>					<b>107,454</b>	
	内科						
17	総合内科専門医					37,969	2020年01月 01日現在
18	認定内科医					89,053	2020年01月 01日現在
	<b>内科系専門医</b>					<b>145,423</b>	
			3,000				専門医制度 なし

表3：患者数

		対象疾患	厚労省三師調査					
			診療科医師数 (複数可)	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 主診療科医師数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 専門医数	% 構成割 合 (%) (病院 医師%)
1	日本腎臓学会	慢性腎臓病						
		ネフローゼ症候群						
		AKI(急性腎障害)						
		非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)						
		多発性嚢胞腎 (PKD)						
		急速進行性腎炎症候群						
		慢性糸球体腎炎 (IgA腎症)						
		慢性維持透析						
	総計	6,850 (4,526)	22 (22)	4,516 (3,689)	15 (18)	3,988(2,761)	13 (14)	
2	日本感染症学会	敗血症						
		発熱性好中球減少症						
		細菌性髄膜炎						
		感染性心内膜炎						
		中耳炎						
		鼻副鼻腔炎						
		急性咽頭炎						
		急性扁桃炎						
		呼吸器感染症						
		骨髄炎						
		性感染症						
	総計	1,326 (868)	4 (4)	492 (473)	2 (2)	1,141 (909)	4 (4)	
3	日本内分泌学会	甲状腺疾患						
		副甲状腺及びカルシウム代謝異常						
		副腎疾患						
		性腺疾患						
		糖尿病						
		脂質異常症						
		肥満症						
		高尿酸血症						
		視床下部・下垂体疾患						
		更年期関連疾患						
		下垂体前葉機能低下症						
	総計					2,003 (1,428)	7 (7)	
4	日本糖尿病学会	I型糖尿病、						
		糖尿病						
	総計	9,003 (5,155)	30 (25)	4,889 (4,040)	16 (20)	4,768 (3082)	16 (15)	

		対象疾患	厚労省三師調査							
			診療科医師数 (複数可)	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 主診療科医師数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 専門医数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	%	
5	日本老年学会	老年疾患・老年症候群 (認知症、フレイル・サルコペニア、骨粗鬆症、ポリファーマシーなど)								
	総計						1,199 (813)	4 (4)		
6	日本アレルギー学会 (Japanese Society of Allergology)	喘息								
		食物アレルギー								
		アトピー性皮膚炎								
		アナフィラキシー								
		アレルギー性鼻炎								
		結膜炎								
	総計		6,454 (832)	21 (4)	162 (95)	1 (0)	3,106 (1,695)	10 (8)		
7	日本呼吸器学会	重症喘息								
		慢性閉塞性肺疾患 (COPD)								
		肺癌								
		成人肺炎								
		肺結核・非結核性抗酸菌症								
		睡眠時無呼吸症候群								
		慢性呼吸不全								
		急性呼吸不全								
		その他の呼吸器専門医が主として診る疾患								
		急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)								
		特発性肺線維症								
	総計		13,405 (6,849)	44 (34)	5,987 (5,407)	20 (27)	5414 (4,125)	18 (20)		
8	日本神経学会	ジストニア								
		脊髄小脳変性症・多系統萎縮症								
		パーキンソン病								
		てんかん								
		単純ヘルペス脳炎								
		認知症疾患								
		多発性硬化症・視神経脊髄炎								
		細菌性髄膜炎								
		デュシェンヌ型筋ジストロフィー								
		重症筋無力症								
		筋萎縮性側索硬化症								
		慢性頭痛								
		慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー								
		多巣性運動ニューロパチー								
		ギラン・バレー症候群								
		フィッシュヤー症候群								
		パーキンソン以外の基底核疾患								
		運動ニューロン疾患								
		脳卒中								
	総計		7,617 (5,292)	25 (26)	4,922 (4,446)	16 (22)	4,518 (3,609)	15 (18)		

		対象疾患	厚労省三師調査						
			診療科医師数 (複数可)	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 主診療科医師数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 専門医数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	%
9	日本血液学会	白血病							
		急性骨髄性白血病							
		骨髄異形成症候群							
		悪性リンパ腫							
		ホジキンリンパ腫 (HL)							
		多発性骨髄腫 (MM)							
		再生不良性貧血 特発性血小板減少性紫斑 病 (ITP)							
総計		3,456 (3,016)	11 (15)	2,650 (2,631)	9 (13)	3,167 (2,728)	10 (13)		
10	日本リウマチ学会	関節リウマチ							
		全身性エリテマトーデス							
		強皮症							
		炎症性筋疾患							
		血管炎症候群							
		混合性結合組織病							
		シェーグレン症候群							
		ベーチェット病							
		強直性脊椎炎							
		若年性特発性関節炎							
痛風									
総計		6,186 (2,655)	20 (13)	1,613 (1,419)	5 (7)	4,563 (2746)	15 (14)		
11	日本臨床腫瘍学会	癌化学療法							
		原発不明がん							
		発熱性好中球減少症 (FN)							
総計						1,003 (961)	3 (5)		
12	日本消化器内視鏡 学会 (Japan Gastroenterologi)	早期胃癌							
		大腸がん							
		総計					1,3537 (8,673)	44 (43)	
13	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)	急性冠症候群							
		慢性動脈疾患							
		安定冠動脈疾患							
		心筋症							
		不整脈							
		急性・慢性心不全							
		感染性心内膜炎							
		遺伝性不整脈							
		肺高血圧症							
		成人先天性心疾患							
		肺血栓塞栓症および深部 静脈血栓症							
		血管炎症候群							
		心臓移植							
		心臓サルコイドーシス							
		末梢閉塞性動脈疾患							
		慢性肺動脈血栓塞栓症							
総計		22,674 (12,337)	74 (61)	12,456 (10,489)	41 (52)	12170 (8,118)	40 (40)		

		対象疾患	厚労省三師調査						
			診療科医師数 (複数可)	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 主診療科医師数	% 構成割合 (%) (病院医 師%)	% 専門医数	% 構成割 合 (‰ (病院 医 師%)	%
14	日本肝臓学会 (The Japan Society of Hepatology)	B型肝炎							
		C型肝炎							
		NASH							
		NAFLD							
		肝及び肝内胆管癌							
		総計					5,384 (3,887)	18 (19)	
15	日本消化器病学会	食道炎・食道潰瘍・胃食 道逆流症 (GERD)							
		食道癌							
		胃癌							
		結腸及び直腸癌							
		結腸癌							
		直腸S状結腸以降及び 直腸癌							
		肝及び肝内胆管癌							
		膵癌							
総計		29,478 (13,850)	97 (68)	14,236 (10,847)	47 (54)	1,7814 (11,933)	58 (59)		
16	心身症 (心療内科 士心身症学会)	心身症							
総計		5,617 (1,933)	18 (10)	910 (264)	3 (1)	305 (144)	1 (1)		
	内科系サブ領域	総計	112,065 (57,313)	348 (272)	52,833 (43,800)	175 (216)	83,775 (57,468)	276 (284)	
	内科		87,761 (35,044)	288 (173)	60,855 (21,981)	200 (109)			
17	総合内科専門医					22,522 (15,513)	74 (77)		
18	認定内科医								
	内科系専門医	総計	199,826 (92357)	636 (445)	113,688 (65,781)	375 (325)	106,297 (72,981)	350 (361)	

表 3 : 患者数

		対象疾患		
1	日本腎臓学会	慢性腎臓病 ネフローゼ症候群 AKI(急性腎障害) 非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) 多発性嚢胞腎 (PKD) 急速進行性腎炎症候群 慢性糸球体腎炎 (IgA腎症) 慢性維持透析	特定医療費 (指定難病) 受給者証所持者数 腎臓関連: IgA腎症 7,796 顕微鏡的多発血管炎 8,669 多発性嚢胞腎 8,011 多発血管炎性肉芽腫症 2,554 アルボート症候群 107 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 2,640 急速進行性糸球体腎炎 549 血栓性血小板減少性紫斑病 182 抗糸球体基底膜腎炎 134 非典型溶血性尿毒症症候群 60 一次性ネフローゼ症候群 7,700 間質性膀胱炎 (ハンナ型) 542 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 153 全身性エリテマトーデス 60,446 紫斑病性腎炎 500 全身性アミロイドーシス 2,471 IgG 4 関連疾患 1,428 サルコイドーシス 15,047 ネイルパテラ症候群/LMX 1 B 関連腎症 5	日本腎臓学会
		総計		総計
2	日本感染症学会	敗血症 発熱性好中球減少症 細菌性髄膜炎 感染性心内膜炎 中耳炎 鼻副鼻腔炎 急性咽頭炎 急性扁桃炎 呼吸器感染症 骨髄炎 性感染症	1. 難病の患者に対する医療等に関する法律施工規則第15条第1項第1号に規定する厚生労働大臣が定める認定機関が認定する専門医の資格に該当 2. 児童福祉法施工規則第7条10第1項第1号に規定する厚生労働大臣が定める認定機関が認定する専門医の資格に該当 3. 国立感染症研究所作成の「蚊媒介感染症の診療ガイドライン」において「ジカウイルス感染が疑われる妊婦については日本感染症学会が公表しているジカウイルス感染症協力医療機関などの専門医療機関に紹介し母体のジカウイルス感染症の評価を実施することを検討する。」とあり、このジカウイルス感染症協力医療機関は感染症専門医研修施設の多くが参加している。	日本感染症学会
		総計		総計
3	日本内分泌学会	甲状腺疾患 副甲状腺及びカルシウム代謝異常 副腎疾患 性腺疾患 糖尿病 脂質異常症 肥満症 高尿酸血症 視床下部・下垂体疾患 更年期関連疾患 下垂体前葉機能低下症	・ 下垂体性 ADH 分泌異常症、下垂体性 TSH 分泌亢進症、下垂体性 PRL 分泌亢進症、クッシング病、下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症、下垂体前葉機能低下症 ・ 患者数(平成 28 年度医療受給者証保持者数 24,647 人) ・ 甲状腺ホルモン不応症 約 3,000 人(研究班による) ・ 先天性副腎皮質酵素欠損症(研究班による) 約 1,800 人 ・ 先天性副腎低形成症(研究班による) 約 1,000 人 ・ アジソン病 約 1,000 人(研究班による) ・ ウォルフラム症候群 約 200 人 ・ 副甲状腺機能低下症 約 900 人 ・ 偽性副甲状腺機能低下症 約 400 人 ・ 副腎皮質刺激ホルモン不応症 100 人未満 ・ ビタミン D 依存性くる病/骨軟化症 100 人未満 ・ IgG 4 関連疾患約 8,000 人 ・ 軟骨無形成症 6,000 人 ・ 骨形成不全症 約 6,000 人 ・ 脂肪萎縮症 約 100 人 ・ 無βリポタンパク血症 100 人未満 ・ 原発性高カイロミクロン血症 約 300 人 ・ カーニー複合 100 人未満 ・ 22q11.2 欠失症候群約 4,500 人 ・ アンジェルマン症候群 約 1000 名(平成 21 年) ・ スーナン症候群 約 600 人 ・ プラダー・ウィリ症候群 約 2000 名(平成 21 年) ・ ウェルナー症候群 約 2000 人(平成 21 年) ・ 歌舞伎症候群 約 4000 人(平成 21 年) ・ 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)ホモ接合体患者は 100 万人に1人 ・ 神経線維腫症(平成 24 年度医療受給者証保持者数)3,588 人 ・ ミトコンドリア病(平成 24 年度医療受給者証保持者数)1,087 人 ・ 副腎白質ジストロフィー 193 人(平成 24 年)	日本内分泌学会
		総計		総計
4	日本糖尿病学会	I 型糖尿病、 糖尿病	・ 糖尿病は、医療法に基づき都道府県が策定する医療計画における「五疾病五事業」の一つ、日本糖尿病学会は、日本医師会、日本糖尿病協会と「日本糖尿病対策推進会議」を設立し、糖尿病専門医は活動の中核。	日本糖尿病学会
		総計		総計

		対象疾患		
5	日本老年学会	老年疾患・老年症候群 (認知症、フレイル・サルコペニア、骨粗鬆症、ポリファーマシーなど)	運転免許の臨時適性検査認定医など	日本老年学会
	総計			総計
6	日本アレルギー学会 (Japanese Society of Allergology)	喘息 食物アレルギー アトピー性皮膚炎 アナフィラキシー アレルギー性鼻炎 結膜炎	国の医療費助成制度の診断書作成： ★アレルギー疾患対策基本法 ★アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針 (アレルギー疾患対策基本法第 11 条に関して策定された基本的な指針)	日本アレルギー学会 (Japanese Society of Allergology)
	総計			総計
7	日本呼吸器学会	重症喘息 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 肺結核 成人肺炎 肺結核・非結核性抗酸菌症 睡眠時無呼吸症候群 慢性呼吸不全 急性呼吸不全 その他の呼吸器専門医が主として診る疾患 急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) 特発性肺線維症	「神経学的検査」の施設基準として、 (1) 神経内科、脳神経外科又は小児科を標榜している保険医療機関。 (2) 「神経学的検査に関する所定の研修を修了した神経内科、脳神経外科又は小児科を担当する常勤の医師 (専ら神経系疾患の診療を担当した経験を10年以上有するものに限る) が1名以上配置。	日本呼吸器学会
	総計			総計
8	日本神経学会	ジストニア 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 パーキンソン病 てんかん 単純ヘルペス脳炎 認知症疾患 多発性硬化症・視神経脊髄炎 細菌性髄膜炎 デュシェンヌ型筋ジストロフィー 重症筋無力症 筋萎縮性側索硬化症 慢性頭痛 慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー 多発性運動ニューロパチー ギラン・バレー症候群 フィッツィンジャー症候群 パーキンソン以外の基底核疾患 運動ニューロン疾患 脳卒中	「神経学的検査」の施設基準として、 (1) 神経内科、脳神経外科又は小児科を標榜している保険医療機関。 (2) 「神経学的検査に関する所定の研修を修了した神経内科、脳神経外科又は小児科を担当する常勤の医師 (専ら神経系疾患の診療を担当した経験を10年以上有するものに限る) が1名以上配置。	日本神経学会
	総計			総計

		対象疾患		
9	日本血液学会	白血病 急性骨髄性白血病 骨髄異形成症候群 悪性リンパ腫 ホジキンリンパ腫 (HL) 多発性骨髄腫 (MM) 再生不良性貧血 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	指定難病名：再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症、先天性赤血球形成異常性貧血	日本血液学会
	総計			総計
10	日本リウマチ学会	関節リウマチ 全身性エリテマトーデス 強皮症 炎症性筋疾患 血管炎症候群 混合性結合組織病 シェーグレン症候群 ペーチェット病 強直性脊椎炎 若年性特発性関節炎 痛風	リウマチ専門医は難病法に基づく難病指定医の要件として厚生労働大臣が定める認定機関が認定する専門医資格の一つである。リウマチ科は肢体不自由の医療に関わる診療科であり、リウマチ専門医はリウマチ科において診療に従事し、かつ、その診断に関する相当の学識経験を有する医師であることから、身体障害者福祉法第15条で指定される身体障害者診断書・意見書の作成が可能な専門医資格の一つである。	日本リウマチ学会
	総計			総計
11	日本臨床腫瘍学会	癌化学療法 原発不明がん 発熱性好中球減少症 (FN)	・がん診療連携拠点病院（都道府県及び地域）の指定要件に「化学療法の専門医」 ・オブジーゴによる「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」及び「再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫」の治療が受けられる施設・医師要件にがん薬物療法専門医認定者（の在籍）	日本臨床腫瘍学会
	総計			総計
12	日本消化器内視鏡学会 (Japan Gastroenterologi)	早期胃癌 大腸がん	難病指定医と認定されるための基本学会として認定 (官報)	日本消化器内視鏡学会 (Japan Gastroenterological)
	総計			総計
13	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)	急性冠症候群 慢性冠動脈疾患 安定冠動脈疾患 心筋症 不整脈 急性・慢性心不全 感染性心内膜炎 遺伝性不整脈 肺高血圧症 成人先天性心疾患 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症 血管炎症候群 心臓移植 心臓サルコイドーシス 末梢閉塞性動脈疾患 慢性肺動脈血栓塞栓症	①難病関連診断書、②心臓機能障害身障者認定書類、③ペースメーカー・ICD管理、④高度先進医療施設認定 (TAVI/Mitral Clip/Imperalla/VAD) など	日本循環器学会 (The Japanese Circulation Society, JCS)
	総計			総計

		対象疾患		
14	日本肝臓学会 (The Japan Society of Hepatology)	B型肝炎 C型肝炎 NASH NAFLD 肝及び肝内胆管癌	・ 肝炎対策基本法に基づく肝炎医療費助成制度のための診断書作成（平成25年度、26年度、27年度、28年度、29年度の5年間のC型肝炎に対する医療費助成交付件数は、17,758件、37,288件、91251件、49859件、31779件（厚生労働省 肝炎医療費助成対象者調）、新規薬剤の導入のために平成26年度より交付数が急激に増加、極めて高いウイルス排除率のために対象となる患者数が減少。	日本肝臓学会
	総計			総計
15	日本消化器病学会	食道炎・食道潰瘍・胃食道逆流症（GERD） 食道癌 胃癌      結腸及び直腸癌 結腸癌 直腸S状結腸以降及び直腸癌    肝及び肝内胆管癌     膵癌	難病医療費助成制度の指定医制度 ・ 申請手続きの要件 ・ クロウン病、潰瘍性大腸炎、バッド・キアリ症候群などの診断書の作成  肝炎治療費助成制度（肝臓専門医が不足している医療圏においては一定の講習を受けることにより消化器専門医も可能となる） ・ インターフェロン治療等の要件 ・ 肝炎治療に関する診断書の作成	日本消化器病学会
	総計			総計
16	心身症（心療内科 +心身症学会）	心身症		
	総計			心療内科
	<b>内科系サブ領域</b>			
	内科			内科
17	総合内科専門医			総合内科専門医
18	認定内科医			認定内科医
	<b>内科系専門医</b>			
	総計			